

## 第2回 伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会 議事録

[開催日時] 平成29年8月3日(木) 14:00~16:00  
[開催場所] 伊達市役所保原本庁舎 2階 特別会議室  
[出席者] (五十順、敬称略)

(委員)

- |                             |       |
|-----------------------------|-------|
| ・ 在宅介護支援ネットワークおりの会          | 小野寺 敏 |
| ・ 福島学院大学 福祉学部福祉心理学科         | 日下 輝美 |
| ・ パナホーム株式会社 分譲事業推進部事業開発グループ | 桑田 和伸 |
| ・ 福島県宅建協会 伊達支部              | 斎藤 信雄 |
| ・ 公益財団法人仁泉会                 | 佐藤 欣也 |
| ・ 社会福祉法人伊達市社会福祉協議会          | 佐藤 由美 |
| ・ 株式会社東邦銀行                  | 三瓶 洋一 |
| ・ 福島県北地方振興局                 | 須藤 幹子 |
| ・ 一般社団法人伊達医師会               | 中野 新一 |
| ・ ふくしま未来農業協同組合              | 舟山 悦雄 |
| ・ 福島大学 人間発達文化学類             | 牧田 実  |
| ・ 福島信用金庫                    | 三浦 哲也 |
| ・ 伊達市保原地域包括支援センター           | 森 美樹  |

(事務局)

- |                         |        |
|-------------------------|--------|
| ・ 伊達市市長直轄理事             | 半澤 隆宏  |
| ・ 伊達市市長直轄地域創生担当理事       | 宮崎 雄介  |
| ・ 伊達市市長直轄総合政策課長         | 半澤 哲史  |
| ・ 伊達市市長直轄総合政策課主幹兼地域創生係長 | 菅野 公宏  |
| ・ 伊達市市長直轄総合政策課主査        | 長谷川 徳也 |
| ・ 伊達市市長直轄総合政策課主事        | 佐藤 卓也  |

(委託事業者)

- |                            |        |
|----------------------------|--------|
| ・ 株式会社三菱総合研究所              | 古市 佐絵子 |
| ・ 株式会社三菱総合研究所              | 林 凌    |
| ・ エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社 | 和田 英子  |

[配付資料]

- ・ 次第
- ・ 資料1 佛子園視察報告
- ・ 資料2 委員各位の専門分野やご所属の機関における事業・活動と高子地区での協力・連携可能性
- ・ 資料3 高子地域で目指す取組について
- ・ 資料4 事業主体の募集方法について
- ・ 参考資料 今後のスケジュール

### 1. 開会

- ・ 事務局より開会のあいさつを行った。

### 2. 報告

- ・ 事務局より資料1に基づき説明を行なった。

### 3. 議事

#### 1. 委員各位の専門分野やご所属の機関における事業・活動と高子地区での協力・連携可能性について

- ・ 委員各位より資料2に基づきご説明いただいた。

- ・ 小野寺委員：

調剤薬局の運営、介護事業、NPO 活動を行なっている。「在宅介護支援ネットワーク NPO 法人おりお

りの会」の定例会で本件について説明し、アイデアを募った。高子地区に400世帯を呼び込むという点について、年代別構成比を教えてくださいという質問が出た。その回答を参考にして、事業展開のお手伝いができると思う。

高齢者は移動手段がなくなるので、移動販売車の提供を望みたい。事業者が参画しやすいよう、例えば販売車の貸し出しや、JAからの協力が得られるとありがたい。それ以外には、田舎暮らしのための民宿運営の支援、現在伊達市で行なわれているデマンドタクシーの土曜日・日曜日版があるとよいと思う。園芸や健康教室、食事会等の開催によりコミュニティ形成へ貢献できればと思う。どのように実現できるかは、話し合いだと思ふ。

・ 日下委員：

福島学院大学はキャンパスが2箇所あり、宮代キャンパスには認定子ども園と子育て支援センターの機能が、福島駅前キャンパスには臨床心理士のいる心理臨床センターとメンタルヘルスセンターがある。

伊達市版生涯活躍のまちの方針に関連する事項として、具体的には、教育環境の活用、学生・教員の活用、附属施設の活用があり、生涯学習の場として協力できると思う。子育て支援の相談に応じられる教員、臨床心理士、栄養士の教員を活用して、料理教室の開催や食品加工に関する指導など、様々なイベントができるとよい。学生にとっても、高子地区への大きな貢献の機会になるだろう。連携の可能性としては、学生の地域貢献活動を大学としても積極的に行うという理念があるので、学生ボランティアとして教員と一緒に関わるような取組ができるとよい。具体的には、介護予防を含めた健康づくり講座やメンタル講座、地元の食材を活用した料理教室が考えられる。車椅子利用の移住者に対する生活支援としても学生ボランティアを活用できるのではないかな。学生も地域の中で共生していくコミュニティタウンができればよい。学生も経済的な問題を抱えている場合があるので、アルバイトをしながら勉強でき、地域で生活できる環境ができれば、大学としてもありがたい。

・ 桑田委員：

パナホーム株式会社では、戸建の注文住宅の建設請負業と分譲不動産業をしている。まちづくりという観点でサポートできればと思う。例えば、高子地区では、住宅地を含めた開発を行なうと思うので、工事を含めた開発のアドバイスができるほかに、住宅の供給が可能である。商業施設や福祉施設の建設の請負も、条件によっては可能と考えている。我々の強みは、魅力あるまちづくり・住宅づくりであり、住宅に付加価値をつけて販売してきた実績があるので、そういったノウハウを反映させることが可能ではないかと思う。住宅販売だけで終わり、ではなく、渉外的なお付き合いということで、自治会活動や地域のコミュニティ形成にも力を入れてきたこともあり、地域住民との連携について教えることができるのではないかな。

・ 齋藤委員：

公益社団法人福島県宅地建物取引業協会では、「公益事業Ⅰ」で「災害時における民間賃貸住宅の提供支援」、「空き家・空き地バンク事業」、「宅地分譲販売委託事業」等を積極的に行なっている。

「公益事業Ⅱ」では、消費者との不動産取引におけるトラブルの未然防止を図るための無料相談、苦情解決業務、研修業務、法定講習会、宅建士試験の実施などを行なっている。

伊達市版生涯活躍のまちの方針に関連すると考えられるものとしては、定住・二地域居住希望者に対する情報提供、宅地分譲販売委託事業、あんしん賃貸住宅登録制度が考えられる。協力・連携できる可能性のある事業としては、宅地分譲販売委託事業への協力が考えられる。すでに南相馬市や会津美里町等とも協定を締結している。定住・二地域居住希望者に対する情報提供に関する協力については、セミナーや相談会の開催と情報提供を行なっているので、移住への勧誘に大きく協力できると思う。農地付き空き家についても、農業を楽しむ程度の農地を一般消費者が農地のままで取得できるよう、下限面積の設定緩和について検討を重ねている。

・ 佐藤欣也委員：

計画地 2.5 万平米だけでなく、周辺地域も活動的な状況になっていくという、いわゆるアメリカのスマートグロースという考え方が当てはまるだろう。これまでのまちは、中心部が発展して、その後郊外型になり、中心部が衰退する、という動きだった。他の地域と比べて、この地域で何できるかを明示できることが重要と思う。特別な何かがあれば、都会から田舎に来ることは難しいのではないか。

労働衛生コンサルタントとして予防医学の観点から腰痛の研究をしており、骨盤矯正ベルトを開発して販売している。このベルトを使うことで、リハビリ能力が高まるというデータも取っているが、他と同じような健康増進をうたっても差別化できないので、新しいものや、何かに特化したものを開発することで、活動的というイメージができると思う。

例えば、がんの解析には3週間くらい時間かかってしまうが、その間に滞在してもらえるような場所作りができればと思う。

・ 佐藤由美委員：

伊達市が合併して 11 年目になり、社会福祉協議会でもこれまで色々な活動をしてきたが、自助共助、歩み寄りの中で地域福祉を推進していくことが望ましいと考えている。社会福祉協議会は自治体と連携しながら地域福祉活動をしており、ボランティアセンターは全国的に社会福祉協議会が中心になって立ち上げているので、ボランティアの領域が広がってきている。

伊達市社会福祉協議会の職員は、本所 7 名、各支所 1 名で、地域支援を全般的に支えるということで配置している。特に小地域では自治組織やサロン活動に力を入れている。相談支援では、権利擁護に関する内容が増えている。

連携・協力できることとしては、住民参加型活動の支援ができると思う。アパートやマンションといった施設型の場合には、コミュニティへの入居者の係わり、戸建の場合は自治会への係わりが発生すると想定される。地域の行事に新住民が受け入れられるような環境づくりが必要と思うので、高子沼を楽しむ会の開催や、ワイナリーのためのブドウ栽培といった多角的経営が考えられる。

伊達市にはシニア時代を満喫したい方に来ていただければと思う。社会福祉協議会では、健康・医療・生きがい・仲間づくりといった視点のほかに、就労やあそび要素が必要ではないかと意見が出た。皆さんの意見と重複するが、自然食品、ものづくり、温泉を楽しむ機会、シニアマラソンコー

スを作ってはどうかという意見が聞かれた。Uターンを検討している方に対しては、セカンドハウスのような視点で故郷への帰還してもらうなどのアプローチも考えられるのではないかと。今後の高齢者向け住まいに必要なのは、消費性、生産性、社交性の3つの要素と考える。「終活」やエンディングサポートといった形で、遠方に暮らす入居者の家族とつながる仕組みが事業の中にあってもよいのではないかと。また、空き家の利活用対策とリンクした取組があってもよいと思う。

- ・ 三瓶委員：

地方創生に関わる担当課とともに、お手伝いできるのではないかと。銀行業としてできる部分はファイナンスが中心で、一般社団法人移住・住み替え機構と連携した長期借上げスキームによる移住先での不動産購入資金のサポートなど、ファイナンスの仕組みを専門家と構築することが考えられる。創業については、クラウドファンディングなどの成功・失敗の知見を生かせると思う。住み替えローンについては、市から利子補給の支援制度等が構築されれば他市町村との差別化が図られるであろう。クラウドファンディングについても、福島県のように、伊達市独自の制度が構築されるとよい。創業・就農については、創業塾の開校が可能ではないか。大規模分譲については資金提供が考えられる。事業・活動を実現していくためにできることは、各専門機関とのマッチングであり、つなぐという役割を担うことは可能と思う。

- ・ 須藤委員：

福島県では、移住コーディネーターを今年度から配置しているので、高子地区にも移住コーディネーターを配置するのであれば、県の移住コーディネーターと連携しながら移住者を支援していけると思う。

- ・ 中野委員：

関東圏からいかにしてアクティブシニアに来ていただけるかがポイントである。そのためのコンセプトは、健康な段階から入居して健康寿命を延ばす、受身的存在から主体的存在、地域社会への開放性、の3つと考える。これを踏まえて、この地域で平成25年に設立された「地域包括ケアを支える伊達ネットワーク委員会」の存在が重要と考えている。地域包括ケアについては、福島県では伊達地域がもっとも活発に活動していると考えており、本構想においても、多種連携ができると思う。その他、生活習慣病の予防および対策、高齢者のフレイル、サルコペニアの予防、認知症予防に携わっていきたい。

- ・ 舟山委員：

ふくしま未来農業協同組合の事業内容は、農業生産技術指導、農産物の販売、農業資材の販売、農作業の受委託・仲介、農業税務指導、金融及び共済（保険）業務の全般である。何らかの形で協力できることは、新規就農の援助及び助成金交付、農業塾の開講、農作業の受委託、農業生産技術指導、小規模農園で栽培した農産物の直売所への出荷と考えられる。助成金などについては、農協の中期計画も関わることなので未定の位置づけにはなる。

- ・ 牧田座長：

福島大学を代表する立場とまでは言えないが、事業への全般的な助言ができるのではないかと思う。福島大学には各分野、さまざまな研究者が約 240 名在籍している。現時点で、どのように関わられるかは何とも言えない状態ではあるが、コーディネーター的な役割になるかと思う。
- ・ 三浦委員：

預金受け入れ及び貸付業務・為替業務・両替業務、年金受給者の会の運営、創業等への支援、コンサルティング・相談業務を行なっている。伊達市版生涯活躍のまちの方針に関連すると考えられるのは、社会保険労務士・年金アドバイザーによる年金に関する支援、年金受給者サークル・笑顔倶楽部による交流の場の提供、クラウドファンディングによる地域活動や創業の支援、ファイナンシャルプランナーによる資産運用・相続などの相談といった、側面的な支援になるかと思う。社会保険労務士や年金アドバイザーなどの有資格者の職員がいる。

伊達市とは地域包括連携をしているため、各種ローンや空き家対策、高齢者の見守り活動について連携を行なっている。信金中央金庫を中心に、さまざまな地方の信金があるので、そういった情報が集約されているため、活用できるものもあると思う。
- ・ 森委員：

地域住民の保健、医療、福祉の向上のための包括的地域支援事業を実施している。

介護予防は伊達市版生涯活躍のまちの方針に関連すると思うが、介護予防は、暮らしレベルから死ぬまで一生続けるものなので、1次予防・2次予防・3次予防それぞれどのような介護予防があって、どのような支援ができるかを紹介できると思う。地域の方々が、自分たちでできる主体的な取組・方策への提案ができる。過度な負担は長続きしないので、お互い様の見守りの方法を皆様と考えていくということで、地域包括の仕組みを活用できると思う。
- ・ 小野寺委員：

マンパワーが必要になると思う。日下委員の話を伺い、学生寮の誘致ができれば、安定した若いパワーの確保が期待できるのではと思うが、学生寮の誘致についてはどのようにお考えか。
- ・ 事務局（宮崎）：

我々としても、ありがたいご提案である。シェア金沢では、ごちゃまぜ、多世代の交流、高齢者や障害者が役割を持つ、といったコンセプトで運営されており、学生が月 30 時間ほどボランティアを行えば安く住むことができるという仕組みなので、そういった仕組みを参考にして、学生に住んでもらうこともあり得ると思う。市と福島学院大学では包括連携を締結しているので、引き続き連携をお願いできればと考えている。

小野寺委員に提出いただいたペーパーに、世代構成についてのご質問があった。サービス付き高齢者向け住宅は元気が安心がほしい方向けの住宅だが、特老は入居者と周辺の地域・住民との間に壁ができやすいと考えられる。そこで、開放型というかたちで、生涯活躍のまちにあるべき特老をつくりたい。拠点になるような集う場所は、この場所に行けば誰かがいる、と思える拠点づくりができればと考えている。商業施設については、近くに買い物ができるエリアがないため、そういっ

た施設があればよいと考えている。

- ・ 佐藤由美委員：  
大泉駅がバリアフリーになっており、景観もすばらしいので、高子駅周辺エリア、駅前公園についてもバリアフリー化してはどうか、どのようにお考えか。
- ・ 事務局（宮崎）：  
現時点では、そこまで話が進んでいない。実際のところ、段差がある箇所もあり、生涯活躍のまちとしては課題であると思っている。都市計画道路があり横断しづらいので、歩道を作るなどして、バリアフリーに配慮した導線にしたいと考えている。
- ・ 森委員：  
もし、特老を配置して開放型のコンセプトで設計するのであれば、一般の方も利用できる入浴施設を特老に設置してはどうか。地域交流室を作っている老人ホームもあると聞く。250人くらい集まれるような講堂があれば、専門職が研修を実施したり、講演会を開催できたりして、他の地域から人を呼び込めるような何かを作れるとよいと思う。用事があって施設に来る、という流れができることが望ましい。商業施設もある高子ハイタウンとの連携は不可欠と思う。
- ・ 事務局（宮崎）：  
視察に行った三草二木西圓寺でも、温泉施設が一般にも開放されており、それもひとつの手かと思う。拠点のあり方についてはさまざまな形式があり得ると思う。サテライトオフィスなどのアイデアも検討したい。

## 2. 高子地域で目指す取組について

- ・ 事務局（MRI）より資料3に基づき説明を行なった。

## 3. 事業主体の募集方法について

- ・ 事務局（MRI）より資料3に基づき説明を行なった。
- ・ 舟山委員：  
資料3の高子地域への移住イメージについて、イメージ作りはとてもよいと思ったが、実際にこのような暮らしができるだろうか。体制構築のためには、ネガティブなシナリオも考えたほうがよい。世話人やコーディネーターも十分に考慮する必要がある。
- ・ 事務局（宮崎）：  
おっしゃるとおりで、移住しても友人ができず、こちらに来て何をしたらいいかわからないということも考えられるので、体制作りは重要と思う。
- ・ 佐藤欣也委員：  
ターゲットは関東圏に在住の方に絞っているが、仙台市で暮らす方の中には、地価が高く、住むのに困っている方いると思う。そちらにお声掛けする考えはあるか。

- ・ 事務局（宮崎）：  
ターゲットについては、伊達市から東京に出て行った方が多いということで、まず東京在住の方をターゲットにした。もちろん、それ以外にも、人口の多い仙台市在住の方、伊達市内で山間部に暮らしている方もターゲットになる。シェア金沢では、約半数の入居者が地元の方だそうだ。仙台は大きなマーケットと思うので、検討したい。
- ・ 佐藤欣也委員：  
子どもが仙台にいる方にとっては、伊達市ならば移動もしやすく、よいと思う。
- ・ 齋藤委員：  
独身高齢者の場合、入居の際の保証人はどうなるのか。
- ・ 事務局（宮崎）：  
詳しくない部分もあるが、国土交通省の特例で、保証制度ができつつあるので、そういった制度も把握する必要がある。おっしゃるとおり、施設の運営側にも係わるので、現実的に考えたい。
- ・ 齋藤委員：  
人生100年時代ということで、入居した高齢者同士の結婚もあり得る。そういう場合の対応はどうか。
- ・ 事務局（宮崎）：  
我々も思いのつかない現実的な課題があるということで、気付きを与えていただいた。
- ・ 須藤委員：  
資料4のP.2に「金額等は今後協議」と記載があるが、高額な施設を作っても、入居者がいない、となると困る。コミュニティ形成については、ゆいま〜る那須の事例では、施設内でボランティア的に運転してくださる方がいて、施設の方が移動手段として利用して、買い物に行っていると伺った。今回の募集で、伊達市のまちなかに行けるよう移動手段について募集条件に含めてはどうか。伊達市に来ていただくための目玉がほしい。
- ・ 佐藤欣也委員：  
伊達市内に透析の施設がなく、医師確保に努めている状況である。認知症対応の医師は確保できそうだが、伊達市に来れば、のんびり暮らしながら透析もできる、なればよいアピールにもなると思う。規模が大きければやる意義があると思う。マラソンも流行してきているし、健康を増進するようなイメージを出してもいいのかなと思う。方向性によっては参画したいと思う。
- ・ 事務局（菅野）：  
上保原内科医院が透析の病院だが、飽和状態と伺っている。
- ・ 佐藤欣也委員：  
上保原内科医院は一人の先生で担当されている。目標としてでも、大きな規模を設定できれば、大同団結ということで一緒にできると思う。
- ・ 事務局（菅野）：  
慢性腎臓病の予防は医師会と連携しながら、健康推進を市としてもやっていきたい。

#### 4. その他

事務局より参考資料に基づき今後のスケジュールについて説明を行なった。

#### 5. 閉会

- ・ 事務局（半澤哲史）：

本日はお忙しいところをお集まりいただき、また、長時間にわたり、ありがとうございました。これもちまして、第2回伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会を閉会いたします。

以上